

社会保障を教える際に重点とすべき学習項目（案）

資料1-3

社会保障の理念・内容・課題に絞り込み、主な学習項目の案を列挙

（第7回検討会（平成25年4月25日）資料を修正）

社会保障の理念

- ▶ 日本の社会保障の考え方を理解する
- ▶ 社会がどう成り立ち、社会保障がどう関わっているのかを理解する

○リスクと自立と社会保障制度

- ・人生を生きていく上では様々なリスクがあること
- ・やむを得ない理由で様々な助けを必要としている人々がいること
- ・誰もが助けを必要とする状態になる可能性があること
- ・自立した生活を支援するために、**社会保障制度があること**
- ・日本では全ての国民に人間として最低限度の生活が保障されていること。そのための制度が社会保障であること

○日本の社会保障制度の考え方

- ・日本の社会保障は「社会保険」が中心で、他に社会福祉、公的扶助、公衆衛生があること
- ・それぞれの財源は、税や社会保険料（と自己負担）で賄われていること（可能であれば税と社会保険料の違い）
- ・社会保険の受給は社会保険料の納付が原則であること
- ・社会保障制度は一人ひとりが支えていかなければならないものであること
- ・社会保障制度は、市場経済だけでは果たせない**社会の安定等の目的を達成するために所得再分配を行っていること**
- ・社会保障制度はその所得再分配機能を通じて対象者個人の生活を守っているだけでなく、経済・社会の**安定・活性化**にも役立っているということ
- ・社会保障制度は国ごとに大きく異なり、その国の社会の**あり方**を映し出していること

社会保障の内容

- ▶ 社会保険を中心に、それぞれの制度の概要と意義・必要性和をセットで理解する

少なくとも1つの制度を題材として、公的な保険制度の意義や役割※、そして制度の概要について学習してもらう

- ※強制加入によって多くの人が保障の対象となり社会全体の安定に繋がっていること
- ※各制度とも様々な支え合い（現役世代から高齢世代へ、健康な人からそうでない人へ、所得の高い人から低い人へ）によって成り立っていること

例：公的年金

○公的年金の意義

- ・公的年金は長生きリスク・インフレリスクへの**対策であること、また、障害を負った時や死亡した際に遺族がいる時の保障であること**
- ・仕送り方式で、扶養を社会化した制度であること
- ・**高齢者の生活の基礎を支え、経済を支えていること**

○公的年金のしくみ

- ・皆年金、20歳で加入、遺族・障害年金、納付特例制度（**学生や所得の低い人の保険料支払いを猶予したり免除したりする制度**）
- ・高齢化への対応（**基礎年金の半分が税金、5年ごとの財政状況チェック**）
- ・未納・未加入は**障害・遺族年金を受け取ることもできないこと** 等

例：医療保険

○医療保険の意義

- ・病気・ケガ時のリスクを保障するものであること
- ・個々人のリスクの大きさにかかわらず、誰もが加入できる**仕組みとなっていること**

○医療保険のしくみ

- ・国民皆保険、3割負担、高額療養費制度（**月ごとの医療費の自己負担額が一定額を超えた場合に、その超えた金額を支給する制度**）
- ・諸外国との比較 等

社会保障の課題

- ▶ 社会保障制度が前提としている社会の現状と課題、それに対応するため進められている施策の方向性など大きな枠組みを理解する

○社会保障を取り巻く現状と課題

- ・少子高齢化や非正規雇用の増加をはじめとする社会経済情勢の変化に伴い、社会保障制度にも様々な課題が生じていること
- ・「社会保障制度の中身」と「負担と給付」について、見直しが必要となっていること

○進められている施策の方向性

- ・誰もが参加できる活力のある社会、子どもを生き育てやすい社会を作っていくことが重要であること